

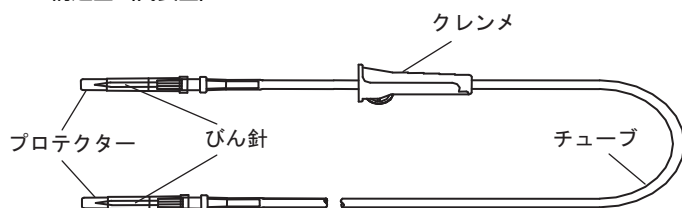
機械器具 56 採血又は輸血用器具
管理医療機器 輸血用連結管 (JMDNコード：70404000)
(輸液用連結管 (JMDNコード：70399000))

テルフュージョン連結管

再使用禁止

- ** **【禁忌・禁止】**
＜使用方法＞
** 再使用禁止、再滅菌禁止

- ** **【形状・構造及び原理等】**
* **＜構造図（代表図）＞**



- ** 血液・体液に接触する部分の原材料一覧

部品名	原材料
びん針	ステンレス鋼*、ポリプロピレン*、ポリエチレンテレフタレート*、ポリカーボネート*
チューブ	ポリ塩化ビニル (可塑剤：フタル酸ジ (2-エチルヘキシル))
潤滑剤	シリコーン油

※品種によって原材料が異なる。

＜原理＞

- ** 本品は、チューブの両端に血液バッグ、輸液バッグ又は他の器具との接続部をもつものであり、輸液の輸注を行うための連結チューブである。また、血液の輸注に使用することもできる。

- * **【使用目的又は効果】**

＜使用目的＞

本品は、輸液の輸注を行うための連結チューブである。また、血液の輸注に使用することもできる。

- ** **【使用方法等】**

1. クレンメを閉じてから、びん針のプロテクターを外し、輸液剤容器のゴム栓の○印箇所順に順次まっすぐいっぴいの深さまで刺通して連結する。
2. 1番目の容器に輸液セットをつける。
3. 輸液剤容器がびんの場合は、連結した最後の容器（輸液セットが接続されていない方）にエア針を刺す。
4. 容器をスタンドにつるし、輸液セットの使用法に従ってセット内に液を流し、クレンメを徐々に緩め、点滴や容器内の液の移行を観察しながら輸注を行う。

＜使用方法等に関連する使用上の注意＞

1. あらかじめ接続部に緩みがないことを確認してから使用すること。
2. 本品に衝撃を与えないこと。【破損する可能性がある。】
3. びん針を使用する場合は、以下の事項を順守すること。
 - (1) 輸液剤容器のゴム栓の同一箇所に繰り返し刺通しないこと。【刺通部分がくり抜かれ、針管内に詰まりが生じる、又はセット内に混入する可能性がある。】
 - (2) 輸液剤容器のゴム栓に対し斜めに刺したり、刺通中に横方向の力を加えないこと。【びん針に曲がりや破損が生じる可能性がある

ある。】

- (3) 輸液剤容器に刺通する際は、輸液剤容器の壁面に針先が接触しないようにすること。【輸液剤容器が液漏れする、又は容器が削れ異物が発生する可能性がある。】
 - (4) 輸液セット、本品のびん針に空気を巻き込まない距離を確保すること。
4. チューブが折り曲げられたり、引っ張られた状態で使用しないこと。
 5. クレンメを閉じる際は、チューブが確実に閉塞したことを確認すること。【クレンメ内でチューブがずれ、閉塞されない可能性がある。】
 6. 針部に直接手を触れないこと。【針刺し、感染の可能性がある。】
 7. ソフトバッグでの輸注に使用しないこと。【バッグ内の空気が移行する可能性がある。】
 8. 針型びん針及びスリムプラスチック型びん針は血液バッグに使用しないこと。【液漏れが発生する可能性がある。】

- ** **【使用上の注意】**

＜重要な基本的注意＞

1. プライミング後は直ちに薬液を投与すること。【薬液が汚染される可能性、又はアルカリ性の強い薬剤等においては析出物が生じる可能性がある。】
 2. 使用中は本品の破損、接続部の緩み及び薬液漏れ等について、定期的に確認すること。
 3. 脂溶性の医薬品等ではポリ塩化ビニルの可塑剤であるフタル酸ジ (2-エチルヘキシル) が溶出するおそれがあるので、注意すること。
 4. チューブを鉗子等でつまんで傷をつけないように、また、注射針の先端、はさみ等の刃物、その他鋭利物等で傷をつけないように注意すること。【チューブに液漏れ、空気の混入、破断が生じる可能性がある。】
 5. チューブ及びチューブと接合している箇所は、過度に引っ張るような負荷やチューブを押し込むような負荷、チューブを折り曲げるような負荷を加えないこと。【チューブが破損する、又は接合部が外れる可能性がある。】
 6. チューブと硬質部材（コネクタ等）との接合部付近でクレンメを操作しないこと。【チューブがクレンメに噛みこまれ、破損する可能性がある。】
 7. リキャップする必要がある場合は、針刺しを防止するため、保護具等を使用するか、プロテクターを手で持たずに台等に置いて、プロテクターをまっすぐに被せること。【プロテクターを傾けて被せると、びん針がプロテクターを突き抜ける可能性がある。】
- ** 8. 保管条件によって、チューブ等が変色する場合があるが、性能、安全性に問題はない。

【保管方法及び有効期間等】

＜保管方法＞

水ぬれに注意し、直射日光及び高温多湿を避けて保管すること。

＜有効期間＞

使用期限は外箱に記載（自己認証による）

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者：テルモ株式会社

電 話 番 号：0120-12-8195 テルモ・コールセンター

